

損害保険教育情報誌

そんぽジャーナル

February
2021
創刊号

巻頭
インタビュー

金融経済教育を語る

市毛 祐子氏

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課
教科調査官(家庭科)

小栗 英樹氏

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課
教科調査官(社会科)

西村 隆男氏

横浜国立大学名誉教授/経済学博士

浅川 貴広氏

東京都立蒲田高等学校 主幹教諭(公民科)
東京都公民科・社会科教育研究会 事務局長

竹下 さくら氏

ファイナンシャルプランナー(CFP®)

- 教育ツールのご紹介
- 現場の生の声をお届け[リアルボイス]
- 損保協会からのお知らせ
- 時事ニュース × 損害保険



創刊のごあいさつ

日本損害保険協会は、「損害保険の普及啓発及び理解促進に資する事業」を推進しており、学校教育の現場には、教材の提供や講師派遣などを行っています。

近年、自然災害の激甚化・多発化、新型コロナウイルス感染症の影響等、社会の不確実性が増しており、すべての国民が安心して生活するためには、リスクを正しく認識し、保険商品を適切に選択・利用いただくことで適切に対処できる力(損害保険リテラシー)を養うことが益々重要になっています。

また、2022年4月からの成年年齢の引下げにより、高校生も損害保険の契約者になる可能性があるため、リスクと損害保険について、正しい知識を習得し、必要なリスクに備える必要があります。また、同時期に実施される高校の学習指導要領の解説(公民科(公共)、家庭科)では、民間保険等の「自助」、「共助」及び「公助」の適切な組合せや、生涯を見通した生活設計を立てるうえで民間保険や預貯金といった金融商品の特徴等を学習することが明記されており、学校教育でも損害保険を学ぶことがより一層重視されていると考えております。

今般、こうした状況を踏まえ、高校の公民科及び家庭科の教員の皆さまに損害保険教育を行う上での役立つ知識を提供するため、本誌を創刊しました。損害保険は高校生にとってなじみが薄いものですが、貯蓄や証券等の資産形成とならび、賠償資力の確保、資産防衛として大切な存在です。本誌が損害保険教育をより多くの学校で実践いただく際の一助となれば幸いです。

2021年2月

一般社団法人 日本損害保険協会 理事業務企画部長 宇田川 智弘

創刊の1年ごあいさつ 一般社団法人日本損害保険協会 理事業務企画部長 宇田川 智弘	2
巻頭インタビュー 金融経済教育を語る 学習指導要領の改訂を踏まえた これからの金融経済教育のあり方 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(家庭科) 市毛 祐子氏 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(社会科) 小栗 英樹氏	3
金融リテラシーの向上には 子どものうちからの金融経済教育が必須 横浜国立大学 名誉教授/経済学博士 西村 隆男氏	6
教科間連携やオンライン活用で 自助の必要性を教育する時間を確保 東京都立蒲田高等学校 主幹教諭(公民科) 東京都公民科 社会科教育研究会 事務局員 浅川 貴広氏	8
損害保険は重要な「防護アイテム」 難しい話を身近な事にする工夫を ファイナンシャルプランナー(CFP®) 竹下 さくら氏	9
教育ツールの紹介 日本損害保険協会作成の教育ツール 『明るく未来へTRY!』(リスクと備え) 九州女子大学 家政学部 人間生活学科 田中 由美子教授	10
現場の生の声をお届け「リアルボイス」 興味のあることを入口にする それが損害保険の学びにつながる 品川エトワール女子高等学校 地展(公民科) 小山 雄帆先生	12
損保協会からのお知らせ 損害保険教育支援サイト 「そんぼ学習ナビ」を開設 講師派遣と動画教材	14
時事ニュース×損害保険 時事ニュースから損害保険の今を読み解く 地震と損害保険	18
INFORMATION 損保協会の教材を活用した授業の実践事例 及び本誌に関するお問い合わせを募集しています!!	20

金融経済教育を語る

幅広い視点で金融経済教育や損害保険教育のあり方を探るため、行政機関の担当者、研究者、現場の教員、ライフプランのエキスパートに、それぞれの立場からお話をうかがいました。



横浜国立大学名誉教授／経済学博士
西村 隆男氏

●にしむら・たかお
横浜国立大学名誉教授。博士(経済学)。専門は消費者教育学、生活経済学。金融経済教育や多重債務問題にも詳しく、金融広報中央委員会(日銀内)の委員で同委員会の発行する学習教材の執筆者、金融経済教育推進会議委員、国民生活センター客員講師なども務める。



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(社会科)
小栗 英樹氏

●おぐり・ひでき
公立中学校教諭、宇都宮大学教育学部附属中学校教諭、宇都宮市教育委員会事務局学校教育課副主幹・指導主事を経て、2018年4月より現職。中学校社会(公民的分野)と高等学校(公民)を担当。



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(家庭科)
市毛 祐子氏

●いちげ・ゆうこ
茨城県立高校教諭、茨城県教育庁高校教育課指導主事を経て、2015年4月より現職。高等学校(家庭科)を担当。



ファイナンシャルプランナー(CFP®)
竹下 さくら氏

●たけした・さくら
慶應義塾大学商学部にて保険学を専攻。生損保勤務を経て、ファイナンシャル・プランナーとして独立。個人のコンサルティングを主軸に、講演・執筆活動を行う。千葉商科大学大学院客員教授。「教育費をどうしようかな」と思ったときにまず読む本(日本経済新聞出版)など著書多数。



東京都立蒲田高等学校 主幹教諭(公民科)
東京都公民科・社会科教育研究会 事務局長
浅川 貴広氏

●あさかわ・たかひろ
東京都立高校教諭(公民科)、2013年4月より現職。東京都公民科・社会科教育研究会 事務局長も務める。

学習指導要領の改訂を踏まえた これからの金融経済教育のあり方

市毛 祐子氏

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(家庭科)

小栗 英樹氏

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(社会科)

社会変化に適応した 金融経済教育を充実

激しく変化するこれからの社会において、子供たちがしっかりと未来を切り拓くために必要な力を育むことを目指し、文部科学省では2017・2018年に学習指導要領を改訂しました。従来から、金融や経済について学ぶことは非常に重要であるという認識のもと、学習指導要領に基づき、社会科や公民科、家庭科において金融に関する指導が行われてきました。情報技術

や金融に関する技術の向上等、社会が複雑で予測困難になってきている状況から、新学習指導要領においても、その内容の充実を図っております。

今回の改訂では、共通必修科目として高等学校公民科に「公共」が新設されました。情報技術の発展、グローバル化、人口減少など、いまの子供たちが社会で活躍する時代は厳しい情勢となることが予想され、その中で互いを尊重し合い幸福な人生を送り、よりよい社会を築くための力を身に付けることが必

要になってくると思います。

特に「公共」では、選挙権年齢や成年年齢の引下げを見据え、主体的に社会に参画し、自立した社会生活に必要な力を育みます。

「公共」は内容が大きく三つに分かれています。「公共」の学習内容の一つに「金融の働き」があり、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割についても学習することとなっています。さらに金融に関心を



もった生徒には自分でテーマを設け、学びを深めることも可能となっています。

また、「公共」の履修後に履修可能な選択科目「政治・経済」では、「公共」での学びを基に、さらに発展的に金融に関する学習が

可能です。「政治・経済」では金融に関して、「公共」よりもさらに深く学ぶことが学習指導要領でも求められています。加えて、防災に関する学習もあり、自助、公助、共助という枠組みの中で、財政あるいは保険といった限りある資源をどう組み合わせ、よりよい社会を築いていくべきか、皆で考えて合意を形成するという学習が行われる予定となっています。(小栗氏)

生涯を見通し、家計管理の重要性、リスクへの対応などを学習

家庭科の改訂も、成年年齢の引下げの議論を踏まえ進められました。高等学校家庭科には「家庭基礎」と「家庭総合」の二科目があります。双方ともA～Dの四つの内容で構成されていることが、今回の改訂の特徴の一つです。中でも特に内容Cは、「持続可能な消費生活・環境」とし、(一)では、生活における経済の計画を学習するよう再整理

しました。今回の改訂で、「家計管理」という文言を入れていきます。これは現行の学習指導要領でも学習していることではありませんが、今回の改訂の趣旨を踏まえて再整理しました。

ここでは「家庭基礎」に関して例に挙げますが、家計管理については収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本を理解できるようにします。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット・デメリット)や資産形成の視点にも触れるよう解説に記載しています。

成年年齢の引下げを踏まえ、生涯を見通し、生活者の視点から、家計管理の重要性、リスクへの対応などをしっかりと学んでほしいと思っています。(市毛氏)

「主体的・対話的で深い学び」の実践と教科等間連携

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実践と、カリキュラム・マネジメントの観点からは、教科等間連携が求められると思います。

「主体的・対話的で深い学び」は、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶか、何ができるようになるかを重視し、生徒自身が情報を調べ、考えを形成する等の過程の中で必要な知識も身に付けていくという学習を目指しています。金融経済教育も同様にこれを実践することで、生涯にわたって生きて働く知識や思考力等を身に付けることができると思います。教科等間連携については、金融経済教育のねらいを公民科だけで達成することは難しく、家庭科とともに取り組んで行く必要があります。家庭科と公民科の間でよく連携を図り、どのようなねらいで、どのような学習を行っているのかといった情報

共有を行うことで、より深い学習が可能になると思います。

これらを実践することが、金融経済教育を達成する意味でも、非常に重要なことになるのではないかと考えています。(小栗氏)

損保協会などの関係団体に期待する(一)

金融経済教育の専門家や関係諸機関と連携、協働して、生徒が社会との関わりを意識して、課題を追究したり解決したりするという活動の充実も求められています。

先生方にとっても、最初から教材を作成するのは非常に大変です。金融に詳しい方ばかりではないので、専門家が現実の社会で起こった事例等を基に教材を作っていたらと授業でも適宜アレンジするなどして活用しやすいと考えます。また、専門家を授業に派遣いただくことや、授業で使用可能な教材を関係諸機関で作成していただくとともに、周知をお願いできたらと思います。(小栗氏)

金融リテラシーの向上には 子どものうちからの 金融経済教育が必須

西村隆男氏

横浜国立大学名誉教授／経済学博士



日本は1990年代からの本格的な金融自由化により、外資

系の金融機関の参入や、銀行等の金融機関の窓口で様々な金融商品が販売されるなど、金融環境が大きく変化しました。その中で、2008年のリーマン・ショックなどもあり、消費者の選択の幅が広がる一方で、金融経済教育に対するニーズが極めて高くなってきたのです。世界各国でも、子どものうちからマネーマネジメントやライフプランニングがしっかりとできるようなるための金融経済教育を、国家戦略として取り組んでいるこ

うという動きが見られるようになってきました。

さらに、国際的な動きの中にもOECD(経済協力開発機構)がINFIE(金融教育に関する国際ネットワーク)を作り、2012年には、金融経済教育に関するハイレベルな国家戦略を打ち上げました。それを受けて、オーストラリアやイギリスといった国々が先頭をきつて、学校改革のカリキュラムや新たな教材の開発など、非常にきめ細かいプログラムの作成に乗り出してきました。日本は若干立ち遅れているのですが、こうし

た国々の金融経済教育のベースには、社会に出た大人にいきなり金融の話を提供するのではなく、「収入の範囲で支出する」「将来のために貯蓄をする」といった基本的なお金の管理の話子ども頃からしていこうという考え方があります。それが世界的にひとつの潮流になって、今、子どもから大人までの体系的なプログラムによる金融経済教育の必要性が叫ばれている状況だと思えます。

安心して暮らすために 必要な損害保険教育

そうした金融経済教育の中、リスクマネジメントにおいて、重要な役割を果たしているのが損害保険教育です。生活をしていく上で、人は様々なリスクに直面します。病気、事故、災害、あるいは勤めていた会社の倒産、解雇などですね。そんなリスクへの備えとしてまず考えられるのは、社会保険です。ですから、

社会保険についてきちんと認識することが重要です。社会保険は、どちらかというと社会科学や公民科で押さえている分野です。

しかし、社会保険でカバーしきれない部分や、火災や地震など、そもそもカバーしていない部分もあります。そうした大きな災害から自分の所有財産を守るために、お金を出し合って備えるところに、損害保険の存在意義があると私は思っています。さまざまところでリスクマネジメントが必要な今、損害保険教育は高等学校でより強化していく必要があると思います。

知識としてのみの損害保険教育ではなく、考える力を養う教育であってほしいと思っています。もし、自動車保険、火災保険がなかったらどうなるか。また、最近では自転車事故が多く、神戸地方裁判所では1億円近い損害賠償の判決が出ています。こうした事例をテーマとして取り上げ、学校教育の中で子ども

たちの考える力を育てていく。

アクティブ・ラーニングやディープ・ラーニングといった言葉が流行する中で、そういう一環として、保険の問題を考えていく必要があると思います。

イギリスの組織に見る日本の情報提供の課題

銀行、クレジット会社、生命保険会社、損害保険会社、証券会社、信託銀行など、それぞれの業界団体や会社では、様々なパンフレットを作ったり、中学校や高等学校で出張講座を行ったりして、金融サービスと生活との関係を分かりやすくお話ししてくださっています。しかし、我々から見ると、それが統一的に行われていないという印象があります。

イギリスを例に取ってみると、Financial Capability(ファイナンシャル・ケイパビリティ)金融能力)、略称フィンキャップ(FinCap)というホームページ

が開設されており、さまざまな情報が公開されています。金融に関するローンの相談や保険の相談はもちろん、金融やマネーマネジメントの基礎、保険などをどうやって教えるかなど、金融に関するありとあらゆる情報が出てくるんですね。「先生方が教える」というところを開けば、「こういうテーマでこんなモジュールができます」「こんなワークショップができます」など、具体的な例も出てきます。それをプリントアウトして生徒たちに配って、授業でやってみることもできます。しかも、解説もついています。

これは、非常に有益なサービスです。それを労働年金省がサポートして、さまざまな業界の団体が資金提供して、ウェブサイトを作りあげているのです。

業界の枠を超えた仕組みが金融経済教育のカギに

こうしたウェブサイトを日本

でも実現するためには、時間がかかるかもしれませんが、まずは個々に取り組んでいる業界団体が、共通の連携横断のためのプラットフォームをしっかりと作り、そこで戦略会議をしていたことが重要だと思っています。

国民レベルで日本の金融リテラシーが上がっていくことによって、正しく賢い選択がそれぞれの金融商品でできるわけです。

日本では貧困がないと思っていても多いですが、子どもの6人に1人は貧困家庭だと指摘されています。そういったことをなくしていくために、きちんとした金融経済教育の受け皿を作っていただきたい。業界団体と政府関係機関が協力し、きちんとした金融リテラシー戦略を立て、1日も早くフィンキャップのような仕組みをプランニングしていただきたいと思っています。

(次号へ続く)

教科間連携やオンライン活用で 自助の必要性を教育する時間を確保

浅川 貴広氏

東京都立蒲田高等学校 主幹教諭(公民科)
東京都公民科・社会科教育研究会 事務局長

これからの時代、金融経済教育や民間保険教育は、確実に必要になってくると考えています。

ただ、いきなり社会保障の話をして、生徒たちはなかなかイメージが持てません。ですから導入部分で取り組むべきことは、これからの人生の中でどういったリスクが起こりうるのかを想像させ、人生設計を考えながら、自分で備えていく「自助」の必要性を気づかせることが重要になってくると考えています。その中で教科間連携は、これから確実に必要になってくると思います。教科間の壁は高いため、スモールステップで進んでいくものだと考えます。私は、

教科間連携の方法は4段階ある
と
思っています。最初は、公民科と家庭科の間で内容を調整する。

2段階目は、同じ期間や進路を合わせながら、公民科、家庭科のそれぞれの観点から保険を扱う。3段階目は、同じ授業プリントを使うなどして、ほぼ同じ授業をそれぞれの先生が行う。そして4段階目は、いわゆる合同授業を行うというものです。これから公民科も家庭科も年間を通して扱う内容は増えていきます。ですから、内容を調整して棲み分けを行い、どの教科がどの分野を扱っていけばよいのかを整理するという教科間連携も必要だと考えます。

また、オンライン授業も進み、

これだけさまざまなICTツールがある中で、そういったものを活用していくことも、「時間が足りない」という問題の一つの解決策だと考えています。

ただ、学校現場で民間保険を扱っていくのは、内容面でも限界があるのが現実です。ですから、専門の関係団体がオンラインツールを開発し、学校現場で活用できる仕組みを整えていただくと有り難いと思います。関係団体と私たちが一緒になって、よりよいオンライン学習や

自宅学習を進めていけるような教材を作っていくことが必要だと考えています。

日本損害保険協会が作った動画や冊子『明るい未来へTRY!』(リスクと備え)は、内容も非常によくまとまっていますし、導入において生徒が学習していく意欲をかきたてられるような内容となっていると思います。こうした動画や教材を、授業と自主学習の両面で活用することで、生徒たちは自助の必要性、備えることの必要性に気づいていくのではないかと考えます。



損害保険は重要な「防護アイテム」 難しい話を身近な事にする工夫を

竹下 さくら氏

ファイナンシャルプランナー(CFP®)

近年は台風などの自然災害が多く、生活にダメージを受ける方も多いのですが、損害保険の入り方によって、生活再建のス

ピードは全然違ってくる。ですから、きちんと損害保険について学べる仕組みがあればよいと思っています。特に、成年年齢が引下げになる2022年4月以降は、18歳以上になればいろいろな契約を結べる一方で、すべての責任は自分で負う必要があります。そのとき、ダメージをカバーする損害保険というものがあるのと知っていれば、生きやすさが違ってくるのではないのでしょうか。

高校生にとって損害保険は、

自分とは関係のない難しいものですが、自分の家のことだと、臨場感が出てくると考えられます。例えば、親が自分の家を守るためにどんな保険に入っているかを事前に調べてから授業に臨んでもらうと、「川のそばに住んでいるのに水災に備える火災保険に入っていないかった」ということに気がつく。興味を持つことで、成人になったときに損害保険のことを思い出すと思うんです。身の回りにはどんな保険があり、親はどのように活用しているのかが分かるレベルが、指導の目標になると考えます。

そして、「他人に迷惑をかけたときには賠償しなければいけない」ということを生徒たちに伝えてください。例えば、自転車を運転していて誰かにケガをさせたなら、治療費や入院費を払わなければいけないという前提があります。数千円で済めば、アルバイトのお金で払えますが、相手が寝たきりになると、賠償金が数千万円にもなります。ゲームで言えばゲームオーバーです。今の高校生はゲームで何の準備もなくダメージを受けたら、あつという間にゲームオーバーになってしまふことは体験済みです。リアルな自分の人生



で、損害保険という防護アイテムを備えておけば先に進めるけれど、持っていないとゲームオーバーになるくらい大きなダメージを受けてしまうかもしれないということをお話されてみてはいかがでしょう。そうすれば、損害保険というものが分かりやすくなるはずですよ。

日本損害保険協会の教材は、クイズやイラストなどのビジュアルが豊富で生徒に馴染みやすいので、教えるのに便利です。教員も準備の時間が減って楽になると思います。

『明るい未来へTRY!〜リスクと備え〜』

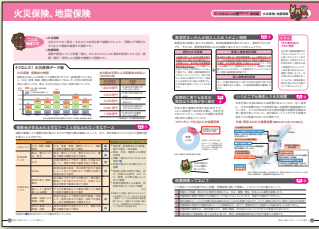
日本損害保険協会では、学校教育や消費者教育に携わる方に向けて、損害保険の基礎知識などを中心とした金融経済教育に関する教材や資料を作成しています。

『明るい未来へTRY!〜リスクと備え〜』

高校生や大学生が使う「コア教材(生徒用)」と教員の方が授業する際に、進め方の参考となる「教員用手引書」の2冊セット。

●コア教材(生徒用)

生徒の日常生活上のリスクを考える「Work」ページとそれを解説する「資料編」で構成。損害保険の基礎用語の説明や損害保険の疑問に答えるQ&Aも掲載。パワーポイント版の教材も提供しています。



上は「資料編」の「火災保険、地震保険」のページ。

●教員用手引書



コア教材を使った授業展開例や生徒に自ら考えさせるための問いかけアイデア、実際の授業事例などを紹介。



<https://www.sonpo.or.jp/education/high/>

動画版も提供しています!

●動画版

- ①冊子教材の内容のうち、「保険の役割」、「社会保険と民間保険」という基本を学ぶテーマを動画化。
- ②「わんぼ先生」と2人の生徒との対話を通して、コンパクトに、分かりやすく学ぶことができる。
- ③冊子教材で扱っている「Work」も動画化しており、オンライン授業でも保険の基礎をじっくり学習できる。

※詳しくはP17をご覧ください。



損害保険の正しい知識を学ぶために

日本損害保険協会では、損害保険をより詳しく知っていただけるように、さまざまな年齢層に向けた教材を作成・提供しています。

その中のひとつ、「明るい未来へTRY!〜リスクと備え〜」は、高校生や大学生に向けて作成された教材です。損害保険という難しいというイメージが先行しがちですが、本書は高校生や大学生が「こんなことをしてみたい」と考えている事例を示し、そこにはどんなリスクが潜んでいるのかを紹介しています。そして、そのリスクへの備え方について考えたり、損害保険の役割を学んだりする構成となっています。

また、日本損害保険協会ホームページの「損害保険教育支援サイト『そんぼ学習ナビ』」で、教員の方々が実際に使用しやすいように、コア教材の内容をパワーポイントにまとめた教材も提供しています。加えて短時間で学べるコア教材に沿った動画も公開しています。動画では、生徒が損害保険の基礎に

50分で完結する

損害保険の家庭科授業モデルプラン

— 保険の役割・火災保険編 —

九州女子大学
家政学部人間生活学科
田中 由美子 教授



広島大学教育学部家政教育学専修卒業、広島大学大学院教育学研究科修了。現在、九州女子大学家政学部教授。専門分野は消費者教育、家庭科教育、生活経営学等。

家庭科(家庭基礎・家庭総合)学習指導案

1 題材名	保険の役割 / 火災保険				
2 本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活に関わりが深い「損害保険」を知る ・「火災保険」に関する法律、保険の種類を理解し、必要な備えについて考える 				
3 教材	教員	A ワークシート(クイズ含む)、B 「明るい未来へTRY! ~リスクと備え~」 (参考資料「そんぽのホントくフレッシューズガイド」)			
	生徒	A ワークシート(クイズ含む)、B 「明るい未来へTRY! ~リスクと備え~」			
4 学習の展開					
	生徒の学習活動・学習内容	教員の支援・指導上の留意点	教材	時間配当(計)	学習形態
導入	● そんぽ(損害保険)クイズの内容を考え、○×で回答する ↓	● ワークシートを配布する ● まず、1人で考えるよう指示する(黒板に各班の回答記入表を板書)	A	4分(4分)	個別
	● 4~5人の班で話し合い、各問の答えを1つにまとめる ↓	● 4~5人班での話し合いを指示する(所定時間内に、答えがまとまっているか机間巡視)	A	5分(9分)	班別
	● 班の代表が、先生の問いに挙手で答える ↓	● 話し合いをやめさせ、1問ごとに各班の答えを表に記入する	A	3分(12分)	斉
		● 各問の正解を伝え、正しい回答(板書)に○を記入する	A	2分(14分)	
	● 本時の目標を知る	● 本時の目標を確認する ● 「明るい未来へTRY! ~リスクと備え~」を配布する	B	2分(16分)	
展開	● 失火責任法の内容、制定された背景を理解し、自分が備えるべき内容を知る	● 失火責任法を解説する	B	8分(24分)	
	● 借家人賠償責任保険は、高校卒業後、一人暮らしをする場合、すぐに関わることを知り、内容を理解する	● 借家人賠償責任保険を解説する	B	8分(32分)	
	● 地震による火事は、火災保険ではなく地震保険で補償されることを理解する	● 地震による火災の補償を解説する	B	8分(40分)	
	● 身近な生活に潜むリスクを想定し、それに備えるとともに、保険商品を適切に選択する必要性を理解する	● 「保険の役割」と「万が一への備えの必要性」について解説する	B	10分(50分)	

プランのポイント

- 1 授業の導入部「保険の役割」でクイズを取り入れた。クイズの採用により生徒の関心度が上がり学習効果も高くなる、という実証もある。
- 2 「アクティブ・ラーニング」の手法のひとつ「グループディスカッション」を取り入れた。クイズで○×のどちらを選んだか、またその理由等を話し合う時間を設けた。身近なテーマで具体的に留意すべきことを、考えさせる内容とした。

教材 A ワークシート(クイズ含む)

下はワークシートのクイズ部分の抜粋。

保険の役割 / 火災保険

【 1 】 【 2 】 【 3 】 【 4 】

(そんぽ(損害保険)クイズ) (○×で答えましょう)

① 隣の家から出火し、自分の家が燃えた場合、隣りの人から弁償してもらえる。 【 1 】

② 大学生が借りている部屋で火事を起こした場合、元通りして大家さんに返す義務がある。 【 1 】

③ 調理中に地震が発生し、火事を起こした。火災保険に契約している場合、補償される。 【 1 】

教材 B 『明るい未来へTRY! ~リスクと備え~』

下はP8-9「憧れのひとり暮らしがしたい!」

参考資料

そんぽのホントくフレッシューズガイド>
高校生や大学生、新社会人等を対象とした損害保険入門冊子。学習指導案では教員用の参考資料として活用しています。



<https://www.sonpo.or.jp/education/college/>

ついてクイズ形式で学び、さらにその内容の理解が深められる構成となっています。

九州女子大学家政学部の田中由美子教授も、「『明るい未来へTRY! ~リスクと備え~』は楽しみながら知識を身に付けられる構成で、とても良いと思います。これを活用して、学校現場の教員の方々が上手く授業実践できるように講習・手引書を工夫することで、さらに生きた教材になります。またパワーポイント版は、生徒が現在・将来の生活を送るうえで、最低限知っておいた方がよいこととの観点で取捨選択・活用できるのではないかと思います。その際、Workは一度にすべての答えを示すのではなく、スライド枚数を増やすなど、少し工夫や加工をして1問ずつクイズ感覚で答え合わせをするなど、ワーク感がある授業の教材として活用できそうです」と感想を寄せてくれました。

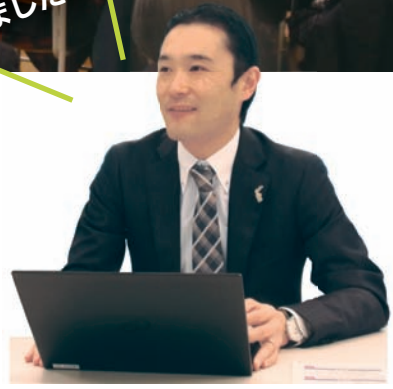
なお今回、田中教授には本書を使った、損害保険の家庭科授業のモデルプランを作成してもらいました。次ページの「リアルボイス」とともに、授業の参考にしていただければ幸いです。

※教材 A ワークシート、学習指導案、学習指導案の解説は日本損害保険協会のホームページ(<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>)からダウンロードが可能です。



損害保険に関する授業をやってみて感じたこと 興味のあることを入口にする それが損害保険の学びにつながる

日本損害保険協会が作成した教材『明るい未来へTRY！〜リスクと備え〜』を使い、実際に損害保険の授業を行った小山雄帆先生に、この教材の使い方や授業後の感想、損害保険教育の必要性などについてお話をうかがいました。



品川エトワール女子高等学校
地歴公民科
小山 雄帆 先生

現代社会や倫理、政治・経済の分野を扱う公民科の授業は身近な内容も多く、生徒たちが関心を示すものも少なくありません。実際、アメリカ大統領選挙や日本の総裁選などの時事ネタにも、生徒たちは意外と興味を持っていてるんです。ただ、難しい漢字や言い回しが並び、新聞やテレビの解説はなかなか理解できず、結局「よく分からな

い。やくめた」ということになってしまふ。それは、本当にもつたないです。ですから、生徒たちの興味が続くようなツールやアイデアがあればいいのに、といつも思っています。

日常生活にあるリスクから 損害保険の概要を教える

昨年度、私は日本損害保険協会が作成した教材『明るい未来へTRY！〜リスクと備え〜』を使って損害保険に関する授業を1時限で行いました。この教材は、アクティブ・ラーニング用につくられたもので、海外旅行保険や火災保険、自動車保険などの損害保険と7つの「やってみよう」が紐付けられています。私は、7つの「やってみよう」

と」から1つ選んで授業を進めることも考えましたが、生徒たちが卒業間近の3年生ということもあり、民間保険の概要を理解して欲しいと思います。あえて「やってみよう」をひとつに絞りました。そして、まずは「皆さんの生活にはどのようなリスクが潜んでいるか考えてみよう」と生徒たちに提案し、「民間保険について考えていこう」と誘導しました。

その後、「やってみよう」を5つあげ、班で1つ選び、再びどんなリスクがあるか考えてみよう」と提案。リスクが出揃ったところで教材を配りましたが、教材はイラストも多くて分かりやすく、生徒たちも興味を持った様子でした。この授業の次の授業のときにも損害保険に触れたのですが、教材を見ていたせいか「入っているとよい損害保険を知りたい」などと話す生徒もいました。

損害保険教育の必要性を実感 教材提供は授業の助けに

実際に授業をやってみて、金融経済教育や損害保険教育の必要性は実感しましたが、私たち教員も損害保険にそれほど詳しいわけ

授業の流れ (50分)

授業の概要説明 (約2分)

- ▼ 民間保険について勉強することを伝える。

導入 (約6分)

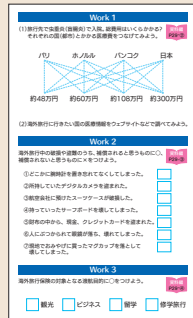
- ▼ 「皆さんの生活にはどのようなリスクが潜んでいるかを考えてみよう」と提案。
- ▼ 生徒から「病気」「事故」「借金」といったリスクがある。
- ▼ 『明るい未来へTRY! ～リスクと備え～』のP2「人生を変えてしまうかもしれないリスクとは?」のイラストをスライドで見せながら他のリスクを考えさせる。
- ▼ こうしたリスクを保障(補償)してくれる民間保険について勉強していこうと誘導する。



教材のパワーポイント版も用意されている。

展開 (約37分)

- ▼ 「友だちとドライブに行きたい!」「憧れのひとり暮らしがしたい!」「友だちと海外旅行に行きたい!」「ペットを飼いたい!」「ボランティア活動をしたい!」の5つの中からやってみたいことを1つ、班ごとに決めるように指示する。
- ▼ 自分たちが選んだ「やってみたいこと」にはどんなリスクがあるか考えてみようと提案。そのリスクを黒板に書くように指示する。
- ▼ 生徒たちからリスクが出揃ったところで『明るい未来へTRY! ～リスクと備え～』を配る。
- ▼ 教材に載っている自分たちが選んだ「やってみたいこと」のWorkをやるように指示。
- ▼ 5つの「やってみたいこと」の中でも選んだ班が多かった「友だちと海外旅行に行きたい!」の答え合わせをする。他のWorkの答え合わせができるように解答も配る。
- ▼ 「こんな保険があったらいいな」と思うものをあげてみよう提案。



教材のWorkページ。

まとめ (約5分)

- ▼ 「暮らしの中に潜む不安はいろいろあるが、損害保険があることを知っていれば不安は軽減されるので、損害保険のことはぜひ覚えておいてください」とまとめた。また、資料編にも言及。「損害保険について細かく書いてあるが、実際の保険約款はもっと細かいし、長い。でも、重要なことが書かれているので、この資料編くらいの文字量はきちんと読めるようにしておきましょう」と話した。

社会に出たときに役立つ教育をするために

私は今年度から授業のスピード

はありません。それに、正直、教科書を終えるのが精一杯で、損害保険教育にそれほど時間をさくことができないのが現実です。そういう意味では、このような教材を提供していただけるのは助かります。また、自身の体験などを交えながら損害保険を語っていくほうが、生徒も自分事として捉えやすくなると感じました。

アップのため、重要語句などこれまで板書していたことを冊子にまとめ、生徒たちに配りました。そして、教科書などを見て、自分で勉強するように伝えたいのです。私が板書する時間や生徒たちが書き写す時間が減って時間的なゆとりができたため、より具体的な話や関連する時事ネタなども話せるようになりました。このゆとりの時間を利用して、損害保険の知識など、大学の入試には出ないけれど社会に出たときに役に立つことを教えていきたいですね。リスクは

意外と身近にあり、そのリスクを最小限に留めるためには損害保険が有効だということを教える。これもまた、現代社会という科目の重要な役割だと思えます。将来、損害保険の知識が必要になったときに、「そういえば、高校3年のときに小山が言っていたな」と思い出してこれればいい。記憶が呼び覚まされれば、その時点での損害保険の学びは、ゼロスタートではなくなるからです。また、私たち教員を対象にした損害保険教育セミナーなどにも参

加できると、授業をするときの参考になると思います。



班ごとに「やってみたいこと」を選び、Workに取り組む。

損保協会 からの お知らせ

①

損害保険教育支援サイト 「そんぽ学習ナビ」を開設

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、損害保険教育に関する情報を発信する「そんぽ学習ナビ」を開設。見やすく、分かりやすく、ほしい情報が手軽に入手できます。

Point 1

損害保険教育に使える
年代別の教材を紹介
ニーズに合った教材が
すぐに閲覧できる

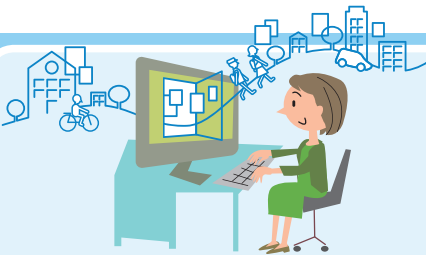


小学生、中学生、高校生、大学生、一般消費者、高齢者といった年代別の損害保険教育について、それぞれの年代の授業やセミナーで活用できる教材を紹介。ニーズに合った教材をすぐにポータルサイトで閲覧することができます。
また、教材だけでなく、役に立つ各種啓発用のチラシやパンフレットも紹介しているので、それぞれの目的に応じて活用ください。

Point 2

広報誌に
掲載されている記事を
データ版で紹介

この広報誌『そんぽジャーナル』に掲載されている記事のデータや巻頭インタビューの様子を撮影した動画もポータルサイトでご覧いただけます。



『そんぽジャーナル』データ版

▶ <https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>

Point 3

新たな教材や
役立つ情報なども
順次、発信

新しい教材や損害保険教育に関するお役立ち情報も、タイムリーにお伝えしていきます。
定期的にチェックしていただけたら幸いです。



New! Portal Site

損害保険教育支援サイト そんぽ学習ナビ



一般社団法人 日本損害保険協会 SONPO
The General Insurance Association of Japan

講師派遣のご案内 損害保険Q&A リンク集 検索

小学生向け 中学生向け 高校生向け 大学生・若手社会人向け 一般向け 高齢者向け 教育お役立ち情報



学校教育や消費者教育に携わる方向けに、損害保険を中心とした金融経済教育に関する情報を発信しています。



授業などで使える教材

授業などで使える教材を年齢層別に取りまとめています。授業実践例や手引きをご用意しているものもございます。

小学生向け



防災・安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」をはじめ、交通・生活安全に関する教材などがあります。

中学生向け



交通事故や自然災害などの身の回りのリスクについて、ワークシート形式で学べる教材などがあります。

高校生向け



身の回りのリスクのほか、損害保険の基礎知識を学べる教材などがあります。

大学生・若手社会人向け



大学生・社会人になるにあたって、備えるべきリスクの種類や内容を理解するための教材などがあります。

一般の方向け



身の回りのリスクや損害保険に関する知識を全般的に学べる教材などがあります。

高齢者の方向け



高齢者の方が特に遭いやすい事故やトラブルの注意点をまとめた冊子などがあります。

損害保険教育支援サイト **そんぽ学習ナビ** ▶ <https://www.sonpo.or.jp/education/>



損保協会 からの お知らせ

②

講師派遣と動画教材

日本損害保険協会では、一般的な損害保険の仕組みや役割を理解していただくために、講師派遣や教材の提供を行っています。また、アクティブ・ラーニングに対応できる動画教材も用意しています。

損害保険を知って役立てていただくために 講師派遣を行っています！

教員の勉強会や研究会、セミナーはもちろん、商業・家庭・公民科の授業やロングホームルームなどへ講師を派遣しています。なお、講師の講演料、交通費は日本損害保険協会が負担します。ぜひ、お役立てください。

講演の対象と講演内容

対象となる講演

- 高校生や高校教員、保護者などを対象として高等学校などが主催する講演会
- 高校教員によって構成される教育研究団体などが主催する講演会、研究会での基調講演など
- 大学生・短期大学生を対象として大学・短期大学などが主催する講演会 等

講演内容（プログラム）

- 損害保険の基礎
- 暮らしの中の危険と損害保険
- 交通事故とその責任
- 自転車を取り巻くリスクとその責任
- 自然災害と損害保険
- 損害保険業界の現状 等



<https://www.sonpo.or.jp/education/others/instructor/>

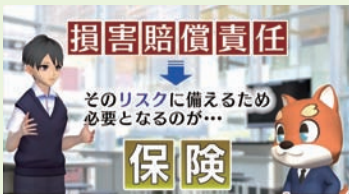
動画教材のご案内

教育のICT化や新型コロナウイルス感染症の影響に対応し、講師派遣で講演している内容のうち、「交通事故とその責任」と「自転車を取り巻くリスクとその責任」の2つを動画化しました。

内容

① 交通事故とその責任

自動車や自転車による交通事故のリスクやその大きさ、交通事故を起こすことで生じる法律上の責任及び交通事故に備える保険について説明します。また、自転車安全利用五則といった安全運転のルールも併せて紹介しています。



本編 33分
クイズ 9分

② 自転車を取り巻く リスクとその責任

「交通事故とその責任」の内容のうち、自転車の運転に潜むリスクや安全運転のルール、自転車事故に備える損害保険に関して紹介しています。



本編 26分
クイズ 5分
30秒

<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/action/koushi/douga.html>

！
 新型コロナウイルス感染症により、講師の派遣を見合わせたり、主催者に感染対策をお願いしている場合がありますので、詳しくはホームページをご覧ください。

入手方法

動画教材に興味のある方、動画教材を活用したい方は、日本損害保険協会ホームページ「講師派遣の講演に関する動画教材のご案内」からお申し込みください。記入いただいたメールアドレス宛に動画URL、使用後のアンケートをお送りいたします。



身近なことから保険の役割や種類を学ぶことができる

アクティブ・ラーニングに対応できる 動画教材を提供

保険の基本が学べる動画教材

「保険の役割」編

- 経済的な備えとしての保険の役割について学ぶことができます。
- 身の回りのリスクについて、具体的な事例を交えつつ、「リスクマネジメント」の基礎となる考え方を学ぶことができます。

「社会保険と民間保険」編

- 保険は「社会保険」と「民間保険」に大別できること、さらに民間保険には「生命保険」と「損害保険」があることや、それぞれの保険の役割について学ぶことができます。

右は「保険の役割」の本編パート。下は「社会保険と民間保険」のクイズパート。

Work② (クイズ)
 6
 次のリスクの備えとして、適切な民間保険を適切な方から①～③が不慮の事故で亡くなった学費が払えなくなった
 ②土砂災害で家が倒壊した
 ③クラブ活動中に転んで足を骨折した
 a. 損害保険 b. 生命保険と損害保険 c. 生命保険 (第三分野)

2編どちらも

本編 約5分
 クイズ 約2分30秒

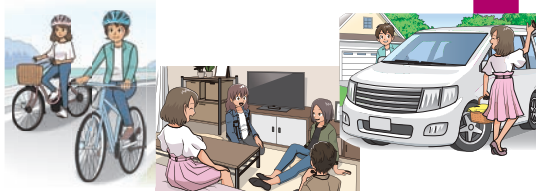
新しい動画教材を3月に提供予定

身近なことから保険を学べる動画教材(3編)

- 高校生が「やってみよう」と思っている事柄に潜むリスクとそれに備えるための保険が学べる動画教材です。
- 内容は、教材『明るい未来へTRY!』のリスクと備え』の中から「ドライブ」「ひとり暮らし」「サイクリング」を取り上げ、くるまや自転車の運転時や、ひとり暮らしをする際のリスクや備えを学ぶことができます。
- 上記の「保険の基本が学べる動画教材」と組み合わせ活用することで、より分かりやすくリスクと保険について学ぶことができます。

授業の展開例を紹介する動画も用意

- 冊子教材や動画教材を活用して、20分もしくは50分(1時間)程度で授業を行う場合の展開例を模擬授業形式で紹介した動画も作成する予定です。実際に授業を行う際の参考として、ぜひご覧いただき、活用ください。



保険の基本が学べる動画教材及び新しい動画教材
 ▶ <https://www.sonpo.or.jp/education/high/>





時事ニュースから損害保険の今を読み解く

地震と損害保険



未

曾有の被害をもたらした2011年の東日本大震災。日本国内観測史上最大規模のマグニチュード9.0の揺れと、その後押し寄せた想定外の津波は、日本中の人たちに恐怖と悲しみを植え付けました。地震保険の必要性を痛感した人も多かったようで、この年を境に地震保険の付帯率はグンと上がり、今も上昇し続けています。2021年は、そんな東日本大震災の発生から10年目となる節目の年。改めて、地震の備えについて考えてみたいと思います。

地 震大国の日本では、いつどこで大地震が起きてもおかしくありません。実際、確率

被

論的地震動予測地図(2018年版)によれば、今後30年間に震度5弱以上の揺れに見舞われる確率は、日本のほとんどの地域で26〜100%。大地震が発生する確率が低いと言われている熊本や大阪でも起こっているのですから油断はできません。

被 害に遭った人たちは、公的な支援金や善意の義援金を受け取ることはできません。しかし、東日本大震災を例にとれば、地震で家屋が全壊被害にあっても、被災者生活再建支援金300万円と義援金約100万円を受け取ったのみ。全壊被害にあった住宅の新築費用は平均約2500万円ですから、

地

2100万円も足りない計算です(図表1)。さらに、被災者生活再建支援制度を申請した人の45.5%は、家電・家具・寝具の購入など、住宅再建以外に50万円以上の費用をかけているのです(図表2)。つまり、地震後に日常生活を取り戻すためには、思いのほかお金がかかるということ。公的支援に頼るだけでなく、自分で備えることも大切です。

地 震に備え、被害を最小限に留めるために、まずは「家具類の転倒などを防ぐ対策をしておく」「家屋や塀の強度を確認しておく」「非常用品を備えておく」「家族で避難場所や役割などを話し合っておく」などの

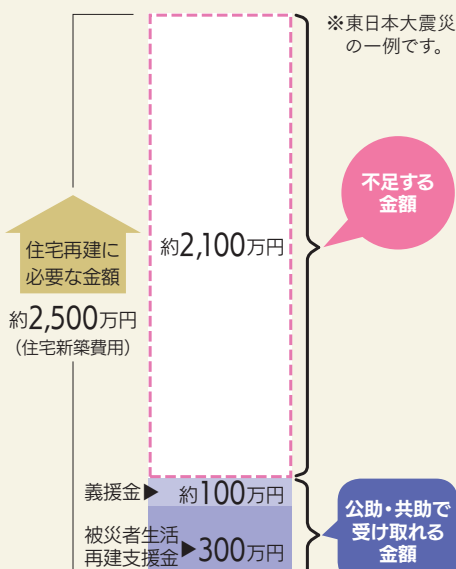


修復工事中の熊本城。400年以上の歴史を誇るこの城も、2016年の地震で被害を受けました。

地震で被害に遭った後、被災者に必要になるお金

(図表1) 住宅再建

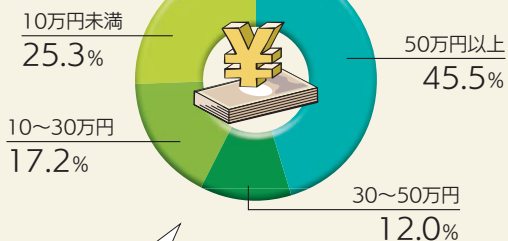
●住宅再建に必要な金額と
公助・共助で受け取れる金額



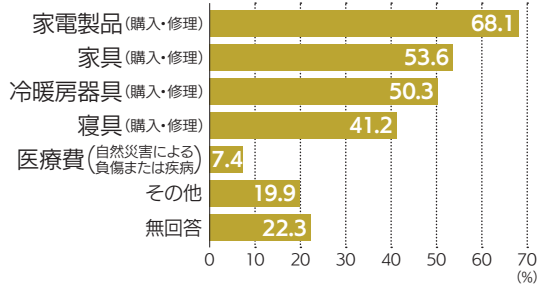
内閣府 防災情報のページより引用：
<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/hiyou.html>

(図表2) 生活再建

●生活必要費用



●住宅再建の経費以外で
生活再建に必要な経費の支出項目



出典：内閣府「平成24年度 被災者生活再建支援法関連調査報告書」

主な地震保険による支払保険金(2011年以降)

日本地震再保険株式会社調べ(2020年3月31日現在)

発生日	地震名など	支払保険金 (単位:億円)
2011年	3月11日 平成23年東北地方太平洋沖地震	12,862
	3月15日 静岡県東部を震源とする地震	47
	4月7日 宮城県沖を震源とする地震	324
	4月11日 福島県浜通りを震源とする地震	37
	6月30日 長野県中部を震源とする地震	33
2016年	4月14日 平成28年熊本地震	3,883
	10月21日 鳥取県中部を震源とする地震	55
2018年	6月18日 大阪府北部を震源とする地震	1,162
	9月6日 平成30年北海道胆振東部地震	494
2019年	2月21日 胆振地方中東部を震源とする地震	33

地震保険の支払保険金を見ただけでも、2011年の東日本大震災がどれだけ甚大な被害をもたらしたのかが分かります。ちなみに、1995年1月17日に起こった阪神・淡路大震災では、約783億円の地震保険の保険金が支払われました。

対策を講じておきましょう。そして、地震による住まいや家財の被害(火災、損壊、埋没、流失)に備えて、地震保険に加入しておくことも重要です。地震保険は火災保険とセットで加入し、地震等による建物や家財の損害を補償するもので、万が一地震で損害を受けたとき、生活再建の助けとなります。公助だけで

なく、自助としての保険を組み合わせることも、生活再建への近道です。
生 徒さんが自分のご家族と話ししてほしい「地震への備え」。大きな災害に遭っても速やかに生活が再建できるよう、地震保険のことを、ぜひ、生徒さんたちにも教えてあげてください。

INFORMATION

損保協会の教材を
活用した授業の実践事例
及び本号に関する
ご意見・ご感想を
募集しています!!



当協会が刊行・発信する教材は、
<https://www.sonpo.or.jp/report/publish/index.html>
からお申し込みまたはダウンロードできます。

- 自校で実践した授業例がありましたら、学校名・教員名・TEL・メールアドレス・授業の概要(科目・学年・目標(くらい)・授業の流れと工夫したポイント)を下記のFAXまたはメール宛にご送付ください(体裁自由)。
- 次号以降でご紹介させていただいた場合は、商品券(5万円分)を差し上げます。
- また、本号に関するご意見・ご感想もFAXまたはメール宛にてお寄せください。

ご応募、ご意見・ご感想をお待ちしております。

FAX 03-6265-6837
メール voice@sonpo.or.jp

一般社団法人 日本損害保険協会
業務企画部 啓発・教育グループ
〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9
TEL 03-3255-1215

当冊子は、日本損害保険協会ホームページ
<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/> に掲載しております。



一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
アイペット損害保険株式会社
アクサ損害保険株式会社
アニコム損害保険株式会社
イーデザイン損害保険株式会社
AIG損害保険株式会社
エイチ・エス損害保険株式会社
SBI損害保険株式会社
au損害保険株式会社
共栄火災海上保険株式会社

さくら損害保険株式会社
ジェイアイ傷害火災保険株式会社
セコム損害保険株式会社
セゾン自動車火災保険株式会社
ソニー損害保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大同火災海上保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
トーア再保険株式会社
日新火災海上保険株式会社

日本地震再保険株式会社
日立キャピタル損害保険株式会社
ペット&ファミリー損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
三井ダイレクト損害保険株式会社
明治安田損害保険株式会社
楽天損害保険株式会社
レスキュー損害保険株式会社

2021年2月1日現在(会員会社28社50音順)



この冊子は再生紙を使用しています